

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「今、ぼくにできること」

三重県 鈴鹿市立加佐登小学校 3年 草薙 結吏

「しょうぼうしさん、にげて。」

7月3日あたみ市でおこった土砂さいがいのえいぞうを見て、ぼくはさげんだ。えいぞうには、まっ黒のどろがすごいスピードでながれていて、しょうぼうしさんが走ってにげていた。そのしょうぼうしさんは助かったみたいだけど、町は家も車も道もなくてまっ黒になっていた。ここに家があったのかと思うほど、何もなかった。ぼくはこわくて、目をふさいだ。

もしもぼくの家がここにあってどうなっていたら。思っただけで苦しくなった。家族がいっしょにいたらいいけど、もし、はなればなれになったら、まず何をすればいいのだろうか。心配になってお母さんに聞いてみた。するとお兄ちゃんが地域のハザードマップを調べていたから、ぼくもいっしょに見た。ぼくの家近くに海や川、大きな山はない。だからハザードマップにしん水よそくや土砂さいがいのけいかいくいきには入っていなかった。安心したけど、小学校の校区の中には土砂さいがいとくべついきの所があってびっくりした。何も知らなかったけど、ぼくの近くでも、気をつけないといけな場所があるんだと分かった。

ぼくの家はずか市の中でも山のほうにあって街中に行こうと思うと、川や山を通らないといけない。2年生の時に、その山道を走っていると、長い間工事をしている場所があった。台風でのり面がくずれたようでブルーシートもひいてあった。だれかが早く気づいて工事してくれたから、ひがいもなかったけど、少しでもおくれていたら、道が通れなくなったり、車や人がうまっていたかもしれない。台風の時や大雨の後は、ちがう道を通ったり、気をつけて通らないといけないと思った。

土砂さいがいの事をあまり知らなかったけど、今年はいろいろな所でひがいがおこっているから、家族でできることを、話した。ひなんじょうほうを見て指示にしたがうことや、ひなんするときに持っていくものを用意した。日ごろから気をつけていくことで命を守ることができるんだと思った。

さいがいで家をなくしたり、家族がなくなったりしている人の事を考えたことがなかったけれど、この作文を書いて少し考える事ができた。さいがいがあつた時にあわてずに家族で話し合った行動ができるようにしようと思った。